授業改善推進プラン 【 6年 】

令和6年度 小平市立小平第四小学校

	学習状況の実態及び課題	具体的な改善策(いつまでに、どの程度)	追加・修正
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に意欲的に取り組むが、既習漢字を忘れていた児童がいる。 叙述に沿って全体像を読み取る力が育ってきているが、目的や意図に応じた内容を取り出し読み取る力に課題が見られる児童がいる。 自分の考えを書いたり、発表したりすることはできるが、さらに書き方、話し方の工夫まで意識をもたせたい。 読書習慣の定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト前に配布する練習用プリントに既習学習も入れ、練習できるようにする。 他教科でも、読み取るべき内容や目的を意識しながら文を読むように習慣付けていく。 ◎対話活動を効果的に取り入れ、発表する前に推敲する活動を入れる。 朝読書や課題後の隙間時間を活用して読書する時間を確保し、毎学期ビブリオバトルを行うことで本を読むことへの関心を高める。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 政治の仕組みや歴史的事象、都道府県名と位置などの基礎的な知識の定着に個人差がある。 必要な情報を図やグラフなどから読み取る力が弱く、資料活用に課題がある。 日本の政治や歴史に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎資料提示の方法を工夫し、資料の読み方の指導を徹底する。指導の定着をみながら、段階的に資料選択ができるようにしていく。 各単元ごとに、知識の定着を確認する時間を設ける。 毎時間、調べたことから考えをまとめ、伝え合う活動を行い、主体的に学習に取り組めるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な内容の定着が不十分な児童がいる。 図形の性質や計量の学習は概ね力が付いてきた。 筋道を立てて解決していく力、粘り強く考えていくことが十分ではない児童がいる。 自分の考えを絵や図、式などを使って、ノートに思考過程を整理して書く習慣が付いてきたが、考えを説明する力は弱く、自分の考えに自信がもてない児童がいる。 既習事項を生かして考えたり、生活で生かしていることとする意欲は高い。 学習に対して意欲的に取り組むことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えを絵図、式などを使って、工夫をしながらノートに思考過程を整理して書く習慣を付けさせる。 習熟度に応じて授業の初めに既習事項を復習することで基礎基本の定着を図り、発展的な問題に対峙しても既習事項と照らし合わせながら解決できるように指導する。また、問題解決の結果を多面的に考えられるようにする。 自力解決の時間を十分に確保する。ペアなど一人一人が説明する時間をとったうえで、模範となる児童に発表させ、上手な説明や発表の仕方について共通理解を図り、自分の考えに自信がもてるようにする。 生活場面をもとにした学習課題を設定したり、学んだことを言語化したりする時間を設ける。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 結果から多面的に物事をとらえ、より妥当な考えをもって考察する力が全体的に弱い。 実験や観察に、グループで協力して取り組むことができる。 実験や観察に取り組む意欲や技能に個人の差が大きい。 考えを文章に表し、説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎結果を正しく読み取り、正しく解釈できているかということに加え、他の班の結果や日常生活など多面的に物事をとらえて、考察できるようにポイントを明示する。また、実験・観察中にも多面的に物事を考える意識をもって取り組ませる。 自分の考えをノートに書いたり友達に説明したりする時間を確保するなど、自分の考えとして身に付けられるようにする。 得た知識をもとに日常生活の現象を科学的な言葉を用いて表現することで、学習した内容の理解を深められるようにしていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 協働的かつ個人的な技量の向上を図り、音楽の表現をさらに高めようと取り組んでいる。 器楽の学習では技能に個人差があるが、友達と聴き合い、教え合い意欲的に取り組んでいる。 意欲的に学習に取り組む児童が多いが、具体的どのようによければいいか支援が必要な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌唱や鑑賞の学習を通して、学習者用端末を活用して意見を共有し価値観を広げていくようにする。 感じたことを自分の言葉にして伝えるなど、言語活動を通して、自分の思いを相手に伝える力を養うようにする。 学年全体で演奏することが楽しいと思える環境づくりに努める。 表現活動では、基礎的な技能を高め、自分たちの思いや意図を表現に生かして合唱したり、合奏したりすることができるよう、題材構成を工夫する。 多様な音楽の魅力に気づき、自分たちの表現に生かしたり、友達と伝え合ったりできるようにする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、造形的な特徴を理解することができる。 技能的な既習事項を活用することができる。 表したいことや表し方について、豊かな発想ができる。 友達の作品から見方や感じ方を広げ、発表できる。 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎作品製作のスケジュールなど主体的に考えられるように支援し、理解しにくい物の構造等については丁寧に説明する。 既習事項を繰り返し学習する。 友達の作品を鑑賞することで、見方や考え方が広がり、喜びが感じられるような活動を設定する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習した技能(特に手縫いの玉止め)が不十分な児童がいる。 火加減など、具材に合わせて調整することが難しい。 学習に対して意欲的に取り組むことができる。特に実技を含む単元に対する意欲は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能が身に付けられるように、継続的に実技に取り組む。 具材の固さやかさに合わせて、様子を見ながら調理できる実習に取り組む。 ◎日常生活から課題を見付けさせ、実践的・体験的な学習を通して学ぶようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に応じた基本的な技能を身に付け、年間で体力を高める必要がある。 心の健康、けがの防止、病気の予防についての理解の面では個人差が見られる。健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる必要がある。 各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができる児童が多い。技能にかかわらず、挑戦する姿勢も多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習カードの活用や効果的な発問で、自己の伸びや課題を把握できるようにさせ、自分にあった課題を選ばせる。 学習カード、ノートなどを用いて、運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。 運動に関する気付きや互いのよかった所や工夫した所を振り返り、自己の力を高め合うことのできる主体的な学習を展開する。 運動量と伸びの実感を重視し、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、日常的に体力を高めることができるようにする。 友達同士で振り返ったり学び合ったりする時間を確保し、考えながら運動する楽しさを味わえるようにする。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で課題を設定して調べることができる児童が多い。 問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を更に育て、自己の生き方を考えることができるようにさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎問題解決後、自己と対話したり、それを児童間で伝え合ったりして成長を振り返る活動を大切に、新たな課題につなげさせていく。 見通しをもって学習し、自己の生き方に結び付けて考えられるようにする。 	

特活	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会では積極的に自分の意見を出す児童とそうでない児童との差がある。 ・提案理由に沿って意見を出したり、折り合いをつけて話し合ったりすることができる児童が徐々に増えてきた。 ・委員会やクラブなどにきちんと取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学級会ノートを活用して事前に意見を考えさせ、近くの友達と話し合う中で自分の意見を出せるようにする。 ・提案理由を常に意識させるために、児童の中から提案理由が意識された発言である時には称賛する。また、児童の意識が低い場合には、担任より意識付けの声かけをする。 ・学級会のめあてを提示し、意識をもって取り組めるようにする。 ・委員会、クラブ活動を充実させ、6年生のリーダーとしての資質を育てられるように、定期的に振り返りやアドバイスをする。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材をもとに、自分の考えをもつことができる。 ・自分の考えをもち、友達と交流することができる。友達の考えを取り入れ、考えを広げようとする事ができる。 ・道徳的価値と自分の生活と結び付けることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎B主として人との関わりに関すること、及びC主として集団や社会との関わりに関することを重点に指導する。実生活と道徳的価値を結び付けられるようにする。 ・自分の考えを学習者用端末を活用して表現することで、自己の道徳的成長を実感できるようにする。 ・児童が多面的、多角的に考えられるような発問を構成しながら、道徳的価値の理解が深められるようにしていく。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童がペア活動とスピーチに積極的に取り組んでいる。 ・書くことに熱心に取り組む児童が多い。 ・アルファベット(小文字)を書くことに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が発話できる活動を取り入れ、コミュニケーションを取る楽しさを体感できるようにする。 ・スピーチ活動を通して聞き手にとって分かりやすい話し方のスキル(声の大きさ、スピード、ジェスチャーなど)を身に付ける。 ・基本的な語彙(月、数字、気持ちetc)とアルファベット(小文字)の定着を図る。 	